

記者席

○：「唐突だ」「生徒や保護者の思いに耳を傾けて」。全寮制男子校の楠隼中学・高校（肝付町）を共学化し、通学生も受け入れる県の方針に、郷原拓男議員（自民、鹿屋市・垂水市区）がかみついた。塩田康一知事に「今回の決定に疑問の声がある」「もう一度考え直すべきだ」と迫った。

○：「県外出身の生徒や保護者は肝付の応援団として、地元産品の購

再考迫る

入、ふるさと納税もしている」と地元への影響に言及。通学受け入れや共学化は「周辺の学校と共食いになる」と懸念した。

○：塩田知事の「地元首長や教育委員会と意見交換し、理解してもらった」との答弁に終了後、「理解してもらおうのは生徒や保護者だろう」と納得がいかない様子。今議会は計4人が楠隼を取り上げる。「議論の深まりに期待したい」。攻勢のチャンスをうかがう。

（塩野雄梧）